



地域の話題

童浦校区

子どものころから考えよう

防災教育／防災キャンプ

童浦校区コミュニティ協議会から、災害や災害時の対応を学び、避難所体験をする防災教育について、お便りが届きました。



近くにある浦区自治会の防災倉庫などを見学し、災害時用の機器などが備えられていることや、自主防災会の取り組みについて学びました。

今後も学びの機会を提供

2日間、防災について学び、避難所の生活を体験した子どもたち。「家に帰ったら家族で防災について話したい」「非常持ち出し袋を点検したい」などの感想があり、子どもたちの防災意識の向上につながったようです。

今後も、童浦小学校と協力し合い、地域の子どもたちが「考える力」を養い、自分の命を守るために、さまざまな学びや体験の機会を提供していきます。



▲避難所の居住空間について班ごとに話し合い



▲段ボールを使って避難所に仕切りを作る子どもたち

8月23日(木)・24日(金)、童浦小学校6年生を中心に、童浦市民館を避難所と想定した避難所体験(宿泊体験)などを行う防災キャンプを実施しました。

子どもから始める 防災対策・防災意識の向上

子どもに対して防災教育をすることは、家庭での防災意識の向上につながります。そして地域全体の意識が向上し、地域防災力の強化が図れます。

地域が一体となって企画・運営

防災キャンプの実施にあたっては、校区コミュニティ協議会会長と童浦小学校校長を中心に、コミュニティ協議会の福祉交流部会、生活環

境部会、消防団、子供会、PTA、学校や行政で組織した実行委員会企画・運営を行い、より良い学びの機会となるように話し合いを重ねました。

多くを学んだ防災キャンプ

防災キャンプ初日、子どもたちは、避難所の居住空間について話し合いました。なかなか意見がまとまらず、さまざまな意見が出る中で意思決定していく大変さを学びました。

そして、ホールに敷かれた段ボールで宿泊し、食事は、限られた食器を使って非常食を食べました。子どもたちは、東日本大震災の被災者の方々の大変さを身をもって知ることができたようです。

防災キャンプ2日目には、市民館の



●飲料水兼用耐震性貯水槽からの水くみも体験